教育研修病院として ～地域の皆様へのお知らせとお願い～

院長補佐（教育担当）　蛭田 啓之 ・ 看護部　治田 敦子

当院は地域の中核病院として、様々な医療機関と連携し、診療のみならず、疾病の予防・健康の増進にも尽力していますが、一方で大学病院・教育研修病院としての大きな役割があります。ご存知の如く、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・放射線技師・管理栄養士・医療事務など、医療関係多職種の研修、学生教育・実習に携わっています。患者の皆様にも多大なご協力を頂き、お礼申し上げます。

医学教育は大きく様変わりし、医療現場での実習期間・内容が重視されるようになりました。本学医学部では「豊かな知性と深い医の倫理間観に基づいた全人的医療が行える、人間愛に満ちた『より良き臨床医』を育成する。」を教育目標に掲げ、教育・診療をしています。今年度から、医学部３･４学年でシミュレーション実習・全診療科の基本実習を終了した学生が、５学年で48週間にわたって主要診療科の**「診療参加型実習」**を行い、地域の医療機関での実習プログラムも組まれています。学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的としています。“Student Doctor”として、一定のルールの元で診療に加わりますが、全国医学部共通の試験に合格し、実習を行うに十分な知識、技術や態度を身に着けた学生のみに付与される資格です。診療の内容によって同意書をお願いすることもあります。

また、看護師を育成する臨床実習でも、複数の学校から看護学生を受け入れております。日本の高齢化社会では看護師がいろいろな分野で必要とされております。知識や技術を学ぶと同時に、患者さん・ご家族の気持ちにより添える看護師の育成を目指しております。そのためには、学校での学びの他に臨床実習での学びがとても大切となります。学生が受け持ちをお願いする際には十分な説明をさせていただき、実際に援助をさせていただく時には、教員や学生担当の看護師が指導や一緒に援助を行う等、患者さんの安全を第一に考えて実習させていただきます。

これまでよりも多くの学生が診療の現場で一緒に学ばせて頂きます。医学の知識・診療の内容・量は膨大で、より良き医療人を育てるためには多くの時間と経験が必要です。多数の医療機関で協力し、地域全体で学生の教育を担って頂くことになります。今後とも、皆様のご理解とご協力を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

外来受診のご案内

- **開扉時間**　8:10
- **受付時間**　初診 8:30～11:00　再診 8:30～11:00
  ※一部診療科では午後の受付となる場合があります
- **休 診 日**　日曜日・祝日・第3土曜／創立記念日(6月10日)
  年末年始(12月29日～1月3日)
- **代表電話番号**　043-462-8811
  予約変更専用　043-462-0489(平日14時～16時)
- **健康保険証（原本）、その他の公費負担受給者証（原本）を必ずご持参下さい。**
- **各科外来担当医はホームページ**
  http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp　をご覧ください。
- 当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院・大学付属病院です。臨床研修医および医学生・薬学生・看護学生のほか、医療関係各種学生・研修生の教育実習・研修が行なわれております。実習・研修は指導医・指導薬剤師・指導看護師や各職種指導者の監督のもとで行なわれますので、ご協力をお願い申し上げます。ご同意頂けないことによって、その後の診療などを含め、不利益を被ることは一切ありません。

お見舞いについて

- **面会時間**

平　　日	15:00～19:00
土･日･祝日 創立記念日 年 末 年 始	11:00～19:00 （2階西病棟13:00～19:00）

防災センターで面会手続きの上、お見舞いカードを装着してお入り下さい。

時間内での面会が無理な場合は看護師にご相談下さい。状況に応じ時間外面会許可証を発行いたします。

― 編集後記 ―

記録的な暖冬が過ぎ、春を迎えました。春は、新生活をスタートさせる人はもちろん、そうでない人も、なんとなく心躍る季節ですね。しかし、今年は、春になったというのに、新型コロナウイルスの影響がいろんなところに出ています。私自身、発表を予定していた３月開催の学会が中止となってしまいました。残念でしたが、そのおかげ？で、休みが増え、子供たちと遊ぶ時間を多くとることができました。まだまだ世の中は大変ですが、何事も前向きに捉え、一人一人ができることをして、本当の意味で「春」を迎えることができればと思っています。

（リハビリテーション部　寺山）

編集・発行：東邦大学医療センター佐倉病院　広報委員会
〒285-8741　佐倉市下志津564-1
TEL.043-462-8811（代表）
発　行　日：2020年4月【年4回（1･4･7･10月）発行】
U　R　L：http://www.sakura.med.toho-u.ac.jp

Toho University Sakura Medical Center

SAKURA DAYORI
さくらだより

～患者さんと病院を結ぶ情報誌～

VOL.42　SPRING　2020
東邦大学医療センター佐倉病院

基本理念

- 質の高い医療を安全に提供する病院
- 地域に貢献する病院
- 人間愛を共有する病院
- 楽しく明るくチャレンジする病院
- 良き医療人を育成する病院

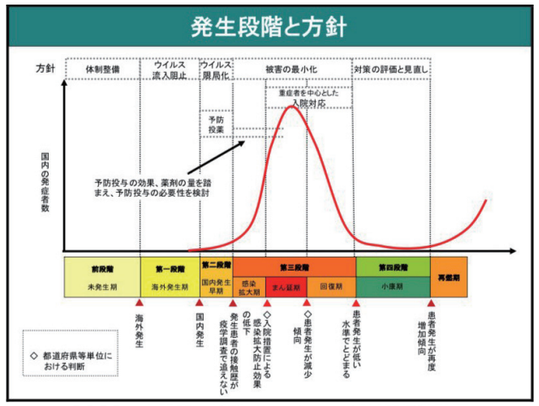
患者の権利

- 質の高い公正な医療が受けられます
- 個人の尊厳が守られます
- 個人のプライバシーが保障されます
- 必要な医療情報の説明が受けられます
- セカンドオピニオンが保障されています
- 医療行為について自己選択ができます

新型コロナウィルスへの対応
（マスク、手洗い、高リスク環境回避そして禁煙）

東邦大学医療センター佐倉病院　副院長 ／ 医療安全管理室長　岡住 慎一

風邪の原因となる従来の４種のコロナウィルスや重症肺炎をもたらしたSARS（コウモリ由来）・MERS ウィルス（ラクダ由来）と異なる新型のコロナウィルス（COVID-19：コウモリ由来疑い）感染症が、昨年末中国武漢に発生し、現在世界に急速に蔓延しています。このウィルスは、飛沫・接触により感染し、２～14日で発症（倦怠感、発熱、咳嗽）に至り、感染者の20%は重症の肺炎を生じて、致死率は約２%（インフルエンザの約20倍）とされています。ワクチンや特効薬は研究途上にあるため、治療は対症療法で患者個人の免疫力による克服を待たなければならない状況にあります。中国では、50代以下の致死率は1%ですが、70代以上は８%、80代以上は15%であり、特に持病のある高齢者の重症化傾向が示されています。そのためこれらの人々への感染防止が重症例抑制に重要です。2008年に新型インフルエンザ対策として国立感染症研究所が発表したシミュレーションでは、都内の発症者が電車通勤することにより、５日で700人、10日で12万人が感染し、６週後には首都圏の約30%に拡大してピークとなること、また、学校休校対策を感染拡大初期３週以内に施行すれば感染ピークを２週遅らせることが示されました。今回日本で初めて集団発生が報じられた東京の屋形船（雨中窓閉宴会２時間で9/100人感染）例の感染確定が２月13日であり、政府により３月２日から全国一斉休校の措置が要請されました。その後の集団発生は、ライブハウス、スポーツジム等の室内・多人数の飛沫が多く換気不良な環境に生じており、そして感染した若年者から家庭および職場でさらに感染が拡大しています。また、ウィルスの結合レセプターはACE2を呼ばれる細胞タンパク質であり、肺においては喫煙（特にニコチン）によって増加することが判明しており、中国での死亡率の性差（男性３倍）は喫煙習慣による可能性が強く指摘されています。このウィルスの特徴は無症状であっても感染力があることです。そのため、拡大防止には、最大限の個人予防策（マスク、手洗い、高リスク環境回避、**禁煙**）を施行し、それでも自身に感染が疑われる状況が生じたら、検査で確定する前に家族・高齢者・集会から即座に離れることを意識し実行することが求められます。高齢者の重症化を防ぐためには、まず若年者が感染しない、させないことの継続が必要です。



2008　内閣府　新型インフルエンザ対策行動計画

うつと暮らし

メンタルヘルスクリニック　桂川 修一

１月25日（土）に市民公開講座を開催しました。多数の市民の皆さまにご参加をいただき、この場を借りてお礼申し上げます。

桂川は「暮らしの中のうつ」と題してうつ病の有病率と原因、その社会負担の試算を報告し、うつ病の特徴的な症状と診断、標準的な治療と薬物療法について説明しました。

公認心理師 端より「うつへの対応方法―認知行動療法って、どんなもの？―」と題して、最近のうつ病の標準治療である認知行動療法を説明しました。否定的な認知の形式を特定し、引き起こされる身体反応、行動、気分を明らかにして、認知の改変を促して現実的対処ができるよう丁寧に支援を行う過程を解説しました。

精神保健福祉士 松田より「働く人のうつと発達障害」と題して、当院のデータから多様化するうつ病の中に発達障害の特性を有する利用者さんも含まれていることを報告しました。リワークプログラムに参加する中で復職に至るプロセスを解説し、最近始まったソーシャル・アビリティ・トレーニング（通称SAT）プログラムも紹介しました。

脳神経内科公認心理師 尾形より「お年寄りのうつと認知障害～こんな時、家族はどう接すればよいか？～」と題して、認知症の患者さんに合併するうつ症状の疫学データを示し、うつと認知症に介在する病理学的変化を挙げて、うつ病が認知症発症の高リスクであることを説明しました。回想法、パーソンセンタードケア、バリデーション療法を紹介し、高齢者に寄り添う家族の具体的な介護方法を教授しました。

総括を兼ねて精神保健福祉士 鈴木より「こころの健康とソーシャルサポート」と題し、資料を配布して利用可能な社会資源を紹介しました。早期発見の相談窓口、通院の公費負担制度、職場復帰支援機関ならびに就労訓練機関、就労支援相談機関、障害者年金受給相談窓口といったうつ病を経験した当事者ならびに家族の医療と生活が維持できるための社会保障について具体的にわかりやすく解説しました。

当日の会場の様子

佐倉病院公開講座の予定（2020年４月～2020年８月）

開催予定日時	講演テーマ	担　当
４月	休　会	
５月30日（土） 13：00～15：00	（中止）床ずれ（褥瘡）を皆で予防しよう！	＜褥瘡対策委員会＞ 林　明照 他
６月13日（土） 13：00～15：00	（中止）検討中	＜耳鼻咽喉科＞ 太田　康 他
７月30日（土） 13：00～15：00	（中止）＜地域で考えるケアと治療＞ てんかんは怖くない“診断と治療”	＜脳神経内科・メンタルヘルスクリニック・ 脳神経外科・小児科・リハビリテーション部・ ソーシャルワーカー・看護部 他＞
８月	休　会	

『非常事態宣言』が出されました！

新型コロナウイルス感染症は日々状況が変わっており、深刻な状態になっております。今後の見通しが立ちません。皆様の安全を確保する上でも、しばらくの間、公開講座を中止することになりました。秋以降に状況をみながら開催を検討致します。

また診療につきましては、可能な範囲で通常診療を行いますが、原則、予約・紹介患者さんのみの対応となります。今後、診療体制が変わりますのでご注意ください。

皆様におかれましてもくれぐれも気をつけていただき、感染対策にご理解とご協力をお願い申し上げます。

さくらだより　vol.42　Spring 2020

教授就任のご挨拶・NIPT（無侵襲的出生前遺伝学的診断）について

臨床遺伝診療センター　竹下 直樹

竹下 直樹 教授

このたび４月１日から東邦大学教授（臨床遺伝診療センター）として、佐倉病院に勤務することになりました。1988年に医師免許取得後、産婦人科医として医療センター大森病院・佐倉病院に於いて32年間、主に妊娠や分娩の領域で皆様の健康管理のお手伝いをして参りました。今回、教授職を拝命し、私の特に専門であります遺伝領域に関し、さらに研鑽を積み、地域の皆さまのお役に立つことが出来ますよう、努めて参る所存であります。どうぞ宜しくお願い致します。

ここで当診療センターに於いて、最も多く遺伝カウンセリングを行っている「無侵襲的出生前診断；Non invasive prenatal genetic testing：NIPT」を紹介いたします。NIPTは、妊婦の血液中に存在する赤ちゃんの遺伝情報を調べ、ある病気の可能性を調べる検査です。この検査は従来の検査に比べ、精度は高く、採血のみのため流産の心配もありません。しかし、安易に行われ、予期せぬ結果に大きな心理的な負担を負うことも考え無くてはなりません。したがって実施にあたっては、検査の情報提供だけではなく、心理的なケアも含め、継続的な妊娠管理をすることが可能な認定施設（全国に92施設、千葉県では２施設　2019年７月現在）で行うことが推奨されています。しかし、2015年頃から、十分なカウンセリングなしで検査を行う無認可施設（美容整形外科、皮膚科などの診療科、最近は歯科でも）が大きな問題となっています。確定検査が必要であるにも関わらず、対応しないケースや、誤った結果を伝えるなど、実際に妊婦・ご家族に対し、大きな不利益を与えてしまっている場合があります。検査をご検討されている皆様は、決して無認可施設で受検されませんよう十分に注意して下さい。

佐倉病院は2016年に施設認定され、現在まで県内を中心に多くの妊婦さんに対応しています。NIPTだけでなく出生前診断全般に渡り、ゆっくりと時間をかけて、ご安心頂くことが出来ますよう、丁寧な遺伝カウンセリングを行っています。

手術を受ける方に口腔ケアの歯科受診を勧めています

手術看護認定看護師　椎名 由広

周術期口腔ケアについて

10年ほど前より手術を受ける患者さんに対し、口腔ケアが必要といわれるようになりました。入院前に歯科医師や歯科衛生士による専門的な口腔ケアを受けた患者さんが、専門的な口腔ケアを受けていない患者さんよりも入院日数が短縮されるという調査結果が報告されています。東邦大学医療センター佐倉病院でも、手術を受ける患者さんに対し、手術を迎える準備のひとつとして、口腔ケアを受ける歯科受診をお勧めしています。

ここでいう口腔ケアとは、食事を食べた後の歯ブラシによるブラッシングや義歯の洗浄ではなく、歯科医師や歯科衛生士による口の中の病気（歯槽膿漏など）や物を飲み込む機能が低下するなどの機能障害に対する予防、治療、リハビリテーションを目的とする歯科治療から機能訓練までを含むケアを指しています。

では、なぜ手術の前に、口腔ケアが必要になるのでしょうか？医療のドラマなどで見たことがあるかもしれませんが、全身麻酔で手術を受ける際には、多くの場合、口元から気管チューブという器材を挿入します。その気管チューブを適切に気管内へ挿入するためには特殊な器具を使用します。その際に、歯が傷んでいたり、グラグラしていると歯が欠けたり、抜け落ちる可能性があります。抜けた歯が食道や気管内に入り込んでしまうこともあります。このようなことが起こらないよう事前に口腔ケアを受けることで歯をガードするプロテクターなどで予防することができます。また、口の中が歯垢や歯石で汚れていると、手術後に免疫力が低下した際、口の中の細菌で、肺炎にかかる可能性があります。さらに、術後に唾液とともに飲み込んだ口腔内細菌が、消化管を通じて手術した部位に感染することにより、治癒が遅れる可能性があります。そのため、歯科を受診し口腔ケアを受けることで、口腔内環境を整え、手術時や手術後のリスクを少なくすることができます。

普段から準備できることは口腔内の健康を保っておくように心がけることです。歯が痛くなってから歯医者に行くのではなく、かかりつけの歯科を定期的に受診し、継続的な口腔ケアを受けることが大切です。